



青翔 SSH 新聞

第21号

令和3年12月20日
奈良県立青翔中学校・高等学校
SSH委員会
〒639-2200 奈良県御所市525
TEL 0745-62-3951
中学 <http://www.e-net.nara.jp/jhs/seisho>
高校 <http://www.e-net.nara.jp/hs/seisho>

第六十五回学生科学賞奈良県 審査結果と中央審査について

学校賞八年連続受賞

日本学生科学賞は、中学生、高校生を対象とした歴史と伝統のある日本最高峰の科学コンクールである。

受賞者たちの声
Q、受賞に当たって工夫した点は
何ですか？

知事賞

『ブラックホール
連星SS433の
ジェットの変化』
高校二年

森本千慧
松尾唯那



A、専門的な単語
に注釈をつけまし
た。データをたく
さん使いました。

中央審査へ進む

県教育委員会賞

『野菜スプラウトを
低カリウム濃度にす
る方法の確立』
高校三年

高見明日香
北隅奈王



A、図やグラフを多
く用いるようにしま
した。重複表現を避
け、読みやすい文章
にしました。

中央審査へ進む

優秀賞

『原核生物数と
環境変化』
高校三年
マドックス姫アン
安在温
冷水まなみ
芳田帆香

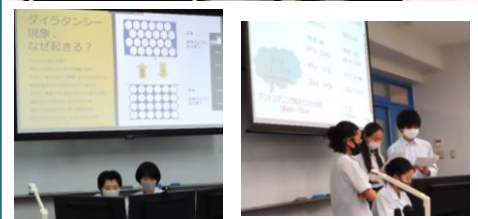


A、研究結果に対
して常に疑問を抱
くようにしました。
また、データに
よって研究を可視
化しました。

サイエンスギャラリー開催

七月二十三日、第六回サイエンス・ギャラリーがオンラインで開催された。開会式の後(化学・生物分野)分科会と(数学・物理・地学・その他分野)分科会の二つに分かれ、参加校による発表が行われた。わが校からの高校二年、三年の合計三十三班のほか、千葉市立千葉高等学校から物理班、東海大学付属高輪台高等学校から生物班・文系班、奈良女子大学附属中等教育学校から化学班・福島県立福島高等学校から化学班、ルネサンス大阪高等学校から広領域班が参加した。発展的な内容や興味深い内容の発表は、良い刺激となっただろう。質疑応答による学校間交流も活発に行われた。

また、発表の後には大学の先生方等から指導助言があった。参加いただいた先生方は次の通り。
奈良女子大学理学部教授の小林毅先生、山内茂雄先生。奈良女子大学ダイバーシティ推進センターの特任教授春本晃江先生。大阪大学大学院工学研究科教授の藤原康文先生、大政健史先生、南方聖司先生。大阪大学大学院工学研究科の六名の大学院生の方々。国立研究開発法人科学技術振興機構の鈴木清史様。
参加いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。



授業改善シンポジウム開催

十一月二十日に、「探究的な学びに関する授業改善シンポジウム」がオンラインで開催された。わが校の数学、生物、探究科学の授業動画を視聴後、東洋大学食環境科学部教授の後藤顕一先生に「学習評価の基本的な考え方と実践」というテーマで講演いただいた。

森本 春花先生

(中学二年・数学)

生徒たちが、数学をこく身近にあるものと考え、創造的に楽しんで取り組むことができるように、関数グラフソフトを用いた授業を行いました。私の授業では「数学ができる生徒」ではなく、「数学的な問題を自ら見出し、協働的に解決に取り組む生徒」を育てたいと考えています。



中井 秀輔先生

(高校一年・生物基礎)

従来のグループワークにGoogleJamboardという電子ホワイトボードを取り入れました。これらを用いることで、生徒からの意見を簡単に集約でき、すべての生徒が発言権を得る授業を行います。また、話し合いや活動の記録が保存されるため、自分の意見の振り返りやクラス全体での知識の共有を行うことができます。



今後もし生徒たちの声を聴き ICT 技術をよりの活用した授業を行いたいです。

生田 依子先生

(高校三年・探究科学)

今回は考察の書き方に関する授業を行いました。「データや先行研究などの証拠に基づいた、確かな考察になっているか」という基準で自己・相互評価をしました。アカデミックな論文の書き方を身に付け、コンテストなどに出場することで視野が広がることを期待しています。また生徒たちには論理的思考力など、将来、分野を問わず必要となる力を身に付けてほしいです。今後、生徒が自分自身の成長を感じられる授業をしたいです。



生徒の声

・相互評価を通して自分の考察の足りない部分に気づき、よりよい表現ができた。(高校三年)
 ・相手に伝えようとするので、より自身の探究科学への理解が深まった。(高校三年)

・文章の再添削をするときに過去の自分の考えを見直せるので、とても楽しかった。(高校一年)



SSH関連授業の紹介

統合科学

この科目はSDGsを念頭に地域や社会の課題を探究的に解決することを目標としている。主な活動として、四、五人で班を作り、それぞれの班が地域や社会の課題に取り組み。御所市役所の方に来ていただき実際の政策について講習を受けたり、御所市民と交流したりすることもある。実際に授業を受けて、データの活用や、地域とのかわり的重要性に気づいたという声もある。本校での履修学年は高校一年。

情報分析科学

この科目では、主にプログラミングや数学的なデータの見方について学ぶ。定期考査はないが、同等の扱いのプログラミングの課題を提出する必要がある。ほとんどの生徒がプログラミング初心者であるため、基本的なことから学んでいる。データリテラシーの重要性や実際にそれが何なのかを学ぶことができるため、情報化社会の今日、とても重要な授業である。履修学年は高校一年。

スーパー ロジック国語

この科目は主に様々な文章を「論理的」に読み解いたり、自分の考えを記述する練習をしたりするものである。この授業では読解力のさらなる向上が期待できる。自分の意見をまとめることに重きを置いているため、自らの考えを表現する力を養うことができる。履修学年は高校二年。



スーパーサイエンス英語

この科目では、海外のサイエンスにまつわるトピックの記事を読み、ディスカッションや関連した動画を視聴することなどを通してグローバルコミュニケーションの力を培う。専門的な単語が出てきて、ALTの先生が授業をするために難しい授業になっているが、先生方の手厚いサポートや質問しやすい環境のため心配はない。積極的な授業参加により、さらなる英語での表現力やリスニング力の向上が期待できる。履修学年は高校二年。

第二十一号担当は、高校二年紙谷真生・長野枝子・野村俊介・松本音楽と中学二年池浦妃麗・安川姫那・石河隼侑・谷昊弥です。